

令和4年度 学校自主研修事業（特色ある学校づくり）による先進校視察および報告会

今年度、本校では学校自主研修事業（特色ある学校づくり）に応募し、特色ある学校づくりを推進するための先進校視察を行いました。その概要について報告いたします。

1 応募の背景

今回は「地域との連携」をテーマに、先進校視察を行いました。本校は農業技術科・総合学科を併設し、地域社会からの期待に応えるべく様々な教育活動を実践してきました。しかし、近年、社会に開かれた教育課程の実現や、地域振興の核としての高等学校の機能強化がうたわれています。そこで、学校と地域との結びつきをより強め、さらに魅力ある小牛田農林をつくっていく必要があると考え、様々な実践事例を学ぶため、この事業に応募しました。

2 視察先の選定

今回は、1をふまえ、島根県に位置する2校（島根県立出雲農林高等学校、島根県立矢上高等学校）を視察先として選定しました。島根県では、「高校魅力化コンソーシアム」として、多様な主体の参画による協働体制を構築しており、高等学校と地域とが連携していく素地がつくられています。また、2校は文部科学省より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受け、様々な取り組みを行っています。特に、出雲農林高校では農業専科の高等学校としての地域連携について、矢上高校では普通科と産業技術科を併設する高等学校の地域連携への取り組みについて、視察に行ってきました。

3 視察

令和4年9月21日（水）から22日（木）にかけて、3名の教諭が視察に行き参りました。両日とも天候に恵まれ、スムーズに視察を行うことができました。

出雲農林高校では、山根校長先生をはじめ5名の先生方に対応していただきました。出雲農林高校は、植物科学科をはじめ環境科学科・食品科学科・動物科学科の4学科が設置され、それぞれの学科において特徴的な教育活動が展開されています。視察では、各学科の特徴や地域連携の仕方、基礎学力向上に関する取り組みについて、詳しくお話を伺うことができました。また、施設見学では、ミニ動物園や畜産、果樹、草花の施設等について見学させていただきました。

矢上高校では、駒川校長先生をはじめとする4名の先生方の他、高校魅力化コーディネーターの方にもお世話になり、様々なお話を伺うことができました。矢上高校では、「第二期矢上高校将来ビジョン」を策定し、町と学校が一体となって学校の魅力化を推し進めています。視察では、普通科と産業技術科の学科間連携、総合的な探究の時間や教科横断的な取り組みなどについて、詳しくお話を伺いました。また、高校魅力化コーディネーターの役割や仕事内容などについても、貴重なお話を伺うことができました。施設見学では、約2000万円をかけて導入したスマートハウスや、畜舎などを見学させていただきました。

4 校内での報告会

11月7日（月）に、本校教職員に対して、視察の概要と今後の本校教育活動への生かし方について、報告会を行いました。その中で、宮城県と島根県の施策の違いや、本校を取り巻く状況の変化について触れ、それらを踏まえた今後本校が取り組むべき内容について、以下の4つの事項を提案しました。

(1)校内体制整備, (2)総合的な探究の時間の改善, (3)学科・コースを越えた学び, (4)教科横断的な取り組み, についての視点を持ちながら, 魅力ある学校づくりに, 教職員一丸となって取り組んでいきたいと思ひます。

(出雲農林高校)



(矢上高校)



- ①学校最寄りのバス停前の看板。
- ②学校最寄りのバス停に掲示してある「矢高ニュースレター」。コーディネーターが編集に関わっている。
- ③スマートハウス内のぶどう（神紅）の木
- ④スマートハウスの制御機器（整備費約 2000 万円）
- ⑤畜舎。学校から少し離れており、生徒はマイクロバスで実習に向かう。

(報告会)

